

## 2021 年度目標達成状況報告書（教養学環）

\*自己評価は「S・A・B・C」の4段階で「S：十分満たしている、A：満たしている、B：概ね満たしている、C：満たしていない」

No.	評価基準			
1	年度目標	教養系科目の円滑な運営		
	年度末報告	学部の自己点検 WG による点検・評価		
		自己評価	S	
		理由	(人文社会系) (外国語系) (自然科学系) (数理系) (ウェルネス系) (社会人基礎系) 新型コロナウイルス感染症対策のため、オンデマンド授業、オンラインリアルタイム授業、対面授業のいずれのスタイルでも、昨年度の経験を活かし、全体的に円滑な授業運営ができた。課題が生じるたび対策を講じて柔軟に対応した。日本に入国できない留学生に対しても、オンラインで授業を行うなど個別に対応した。対面授業の場合は感染防止を徹底し、非常に多くの開講クラスを、専任教員と兼任教員の協働により概ね成功裡に終えることができた。	
		改善策	学修支援センターの積極的な利用促進、ハイフレックス形式の授業の技術的向上をめざす。	
No.	評価基準			
2	年度目標	学外における教育活動の実施		
	年度末報告	学部の自己点検 WG による点検・評価		
		自己評価	C	
		理由	(海外プログラム) コロナ禍で海外渡航が難しく、現地派遣型のプログラムは実施できなかったが、オンライン型プログラム(英語、韓国語)を新たに立ち上げた。 (サービスラーニング) 講義と地域での活動がセットとなった科目であるため、講義部分はオンライン等で実施可能でも、活動部分は実施が困難な状況が続いた。 (集中実技) 前期・後期ともに中止せざるを得なかった。	
		改善策	感染が広がる状況でも学生が学ぶことができるよう、オンラインで参加できる学外教育活動の開拓を模索する。	
No.	評価基準			
3	年度目標	学修支援センターの活用推進		
	年度末報告	学部の自己点検 WG による点検・評価		
		自己評価	A	
		理由	オンライン、オンデマンド授業のみの昨年度より利用者は増加	

			したが、コロナ前の水準には戻らなかった。自然科学系では、関連科目（生物・化学・物理）の利用者数は、激減した昨年度に対して八王子は8倍、蒲田は3倍となり、コロナ禍前の半数程度にまで回復した。蒲田では利便性の向上を図るために、対面授業再開後もオンラインでの対応も継続した。数理系は、講義と連携する学修支援センターの積極的な活用は意図的に抑えた。そのため、利用者はほぼ自主的に相談に行く学生に限られた。社会人基礎系では、レポート執筆やスライド作成における日本語表現を深めるために、学修支援センターの利用を促しているが、多数の利用者が望まれる前期にオンライン授業の期間があったため、全体としては利用者数が少なかった。他の科目でも、コロナ禍で利用を控える傾向が続き、利用者数はコロナ前のように戻らなかったが、学生の認知度は伸びているようである。
		改善策	学修支援センターの指導員から兼任講師に直接情報発信できるようにし、連携を強化する。
No.	評価基準		
4	年度目標	2年後のカリキュラム改編に向けて検討開始	
	年度末報告	学部の自己点検WGによる点検・評価	
		自己評価	S
		理由	早い段階から各科目群で検討を開始。改編の方向性について協議し、科目の目的を改めて確認し再編を検討している。現段階ではまだ具体的内容が不明な点もあるが、どのような形であっても柔軟に対応して学生の学修機会を十分に確保できるよう複数の可能性について検討を続けている。
		改善策	新カリキュラムに関する検討を継続する。
<p><b>【2021年度目標達成状況総括】</b></p> <p>全体的に見て、教養系科目を円滑に運営することができたと言える。オンデマンド、オンライン、ハイフレックス、リアルタイム等、様々な授業形態を用いて、学生に学びの場を提供することができた。対面授業では感染対策を講じ、コミュニケーション中心の授業でも問題なく授業運営ができた。ただし感染者が増えるにつれ、学生のみならず教員も不安を感じながら授業を行った。学生が状況に応じて学修方法を選択するスキルを身につけたことも、円滑な授業運営の大きな要因であったと思われる。海外プログラム等の学外における教育活動が今年度も本格的に実施できなかったことは非常に残念である。新カリキュラムについては各科目群で検討を始めたが、不確定な要素が多いため具体的な方向には進まなかった。しかしながら大学の方向性が決まり次第、改編に向けてしっかりしたスタンスを保ちつつスタートが切れるよう、意見交換を行うことは十二分にできた。</p>			

**【2021年度目標の達成状況に関する大学評価】（自己点検評価委員会）**

新型コロナウイルス感染拡大の影響による物理的な条件を除いて概ね達成されている。